

ティーチング・ポートフォリオ

筑波学院大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
徐 毅菁

教育の責任

低学年の学生を対象に、経営学の基礎や経営学概論、いわゆる経営学とは何かという、経営学全般についてアカデミックのアプローチから概観的に説明する。その上、主に2、3年生を対象に、それらの知識を応用してケースステディという手法を通じ、実際の企業に起きた様々な出来事を分析する経営分析1、2を担当する。その他、3、4年生を対象に、自身の専門分野である組織行動論（組織における人間行動のメカニズム）をベースに、マイクロ組織論の観点からビジネスマネジメント演習を展開している。

科目名	対象学年	受講人数*	授業形態	必修選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
経営の基礎	1-4	136	講義	必修	総合教養科目群 教養科目
基礎ゼミ1	1	19	講義	必修	入門科目群
基礎ゼミ2	1	19	講義	必修	入門科目群
経営分析1	2-4	71	講義	選択	専門基礎科目群 コース科目(ビジネスマネジメント)
経営分析2	2-4	36	演習	選択	専門基礎科目群 コース科目(ビジネスマネジメント)
経営シミュレーション	2-4	63	講・演	選択	専門基礎科目群 コース科目(ビジネスマネジメント)
経営概論	2-4	30	講義	選択	専門基礎科目群 コース科目(ビジネスマネジメント)
ビジネスマネジメント演習 D1	3	20	講・演	選択	専門発展科目群 コース科目(ビジネスマネジメント)
ビジネスマネジメント演習 D2	3	11	講・演	選択	専門発展科目群 コース科目(ビジネスマネジメント)

教育の理念

私は教育において、終始学生の「課題を発見し、自分で考え、解決する力」の育成に焦点を当て、理論と実践の融合を目指している。そのため、授業に対して具体的に注力する点は以下3つである。

①アカデミックの視点からの支援である。領域学である経営学を様々な場面で応用する前に、まず経営学を構成する諸分野の専門知識を体系的に学ぶことが必要不可欠である。そこで、経営の基

礎や経営学概論などの授業を通じ、学生に経営学とは何か、経営学を学ぶことで何ができるかを概観的、且具体的なイメージを示す。さらに、ケーススタディを行うことで理論の理解を深める。

②方法論（資料の調べ方やレポートの書き方、プレゼンテーションのスキルなど）の伝授である。いわゆる社会人力であるそれらの能力は、いずれも数をこなすことが大事だと考えている。そのため、ゼミナールだけでなく、他の授業でもグループ発表やレポート課題などを通じ、学生に練習の場をできるだけ提供する。さらに、タイムリーなフィードバックで確実な成長を目指す。

③地元の中小企業の事例の導入である。講義ではケーススタディのメソッドを利用しているが、その対象は大手企業のみならず、学生の希望先や実際の就職状況を反映し、地元の中小企業も積極的に取り入れている。また、今後の予定として、紙面のケースだけでなく実際のフィールドワークの導入なども視野に入れている。

教育の方法

・PPTやVTRなど多種多様な視覚教材の活用

原則、学生の理解を深めるため、座学で行われる講義は必ずPPTを利用して説明する。また、授業後講義中に使ったPPTもPDFに転換してclassroomで公開している。また、学生の興味を引き寄せるために、事例などに関しては雑誌や新聞記事以外、積極的にVTR、例えば企業が公開する宣伝動画やテッド、または経済系のテレビ番組（がっちりマンデー等）などを利用している。

・授業の目的に合わせて適切な授業形態や評価基準の選択

例えば「経営の基礎」等の専門基礎科目の目的はビジネス全般の基礎となる知識の習得であるため、授業自体は講義形式をとり、さらに毎回復習課題を出題し学生の理解度をチェックしている。ほか、中間テストおよび期末テストの実施によって重要な定義や概念への記憶を促している。一方、経営分析の授業ではゼミに近い形をとり、学生を主役にし、できる限り全員に発表の場をもたせられるようにしている。

・参加型授業

講義型の授業でも、適合にディスカッションの場を設け、学生がただ単に講義を聞くのではなく、自ら考えて、さらにそれを他人に伝えるチャンスを提供するように心がけている。また、経営分析の授業では、完全に学生を主体にケースの分析を進めている。その際に、学生の発言を促すために直接授業評価に反映する加点制度（回答の正確さ関係なく、1回の発言+5点）を運営している。

・迅速かつ的確なフィードバック

復習課題や授業内テストは全て1週間以内に採点して本人に返却し、次回授業の冒頭に履修者全体を対象に解説する。レポート課題に関しては、提出者全員に個別で、レポートの良かった点と改善してほしい点をclassroomのコメント機能を利用してフィードバックを行なっている。学生もまた、コメントに異議や疑問を感じる時に、同じくコメント機能で返信することで、場所や時限の制限なく従来の方法よりも気軽に教員とコミュニケーションをとることができた。

・学生に対する個別指導

ゼミでは学術的な指導に加え、定期的に個別面談を行い、学年や出身地に合わせて個々人のキャリア形成に関するアドバイスもしている。その際に、常に学生目線で物事を考えるように気を付けながら、一人ひとりの学生の個性や目指したい目標を尊重し、アドバイザーの立場を徹底している

(面談の様子の一部は本人の了承を得て録画し、グーグルドライブの基礎ゼミ1 (非公開) のファイルに保存してある)。それと同時に、面談で得られた情報は学内 (主に留学生センター)、必要に応じて保護者様とも積極的に共有している。

教育の成果 および 今後の目標

「授業改善報告書」を参照。

参考資料

1. テッド : <https://www.ted.com>
2. がっつりマンデー : https://www.mbs.jp/pgm/tbs_gacchiri/
3. 【Google Classroom】
4. ビジスマネジメント演習 D1 : [https://classroom.google.com/u/2/c/ODM2MTUxNjc3Mzha](https://classroom.google.com/u/2/c/ODM2MTUxNjc3Mzha;) ;
5. 経営シミュレーション : <https://classroom.google.com/u/2/c/MTAwMzc4ODkyNTU3> ;
6. 経営分析 1 : <https://classroom.google.com/u/2/c/ODM2MzkwMTkxNjNa>
7. 【Google Drive】
8. https://drive.google.com/drive/u/2/folders/1NuaSK_bwSEo-r9Qxn9CFwYeWOqOKo5OQ
9. 授業用 PPT (添付ファイルを参照)